

令和7年度 自己評価・学校関係者評価書

令和8年3月18日

静岡聖光幼稚園

1 幼稚園の教育目標

- 自然を素直に受け止め、自然と向き合う感性や意欲を育てよう
- 人と共に生きることの喜びを味わうことのできる社会性を育てよう
- 社会の中で自尊心を持って、自分で生活を営む生きる力を育もう

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- 1 地域との関わりを考えよう。
- 2 異年齢のかかわりの充実を図るために工夫をしよう。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理 由	関係者評価
① 保育の計画性	B	今ある教育課程を、短期の計画により反映させ内容の充実を今後も心掛けたい。	△
②保育のあり方 幼児への対応	A	各学年により違いはあったが、教師間で連携を取り、一人ひとりにあった対応を心掛けていた	○
③教師として資質 能力、適正等	B	個々に違いがみられた	△
④保護者への対応	A	動画配信を充実させる事ができており、送迎時を利用して保護者との連携も多く図ることができた	○
⑤地域の自然や地 域との関わり	B	学年によってより関わった面もあったが、全体での取り組み方の考慮の余地があった	△
⑥研修と研究	B	各自で受けている研修内容を園内研修に繋げていくなど、さらなる内容の充実を図りたい	△
⑦環境整備、 安全点検	A	安全点検については日々行えており、ヒヤリハットなど具体的にそれぞれ気を付けようとしていた	○

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

異年齢との関わりは計画通り充実していたが、学年によっては反省の通り活動内容等さらに工夫をしていきたい。

日々課題等取り組みで、工夫しているところは見られている面もあったが、個人での違いが見られたところもあり、全体で今後配慮すべき点も多い

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
異年齢のかかわりについてさらに工夫しよう	・年間を通して全学年のかかわりをどのような内容にしていくかを検討、あらかじめ日々のカリキュラムを取り入れ、実践する。 ・日常での様々な自由な遊びの時から異年齢のかかわりを個々が持てているかを意識し、配慮していく（声掛けの工夫・その時の様子の把握の共有など）
子どもたちが遊びこめる環境について、今後の保育のあり方と共に考えよう	・二学期から予定通りならば建て替えにより、園舎の環境が変わるため、子どもの遊びの環境について、充実を図れるように考え工夫していく ・子どもたちが主体的に取り組める環境と集団生活だからこそ学べる環境のバランスを考慮しつつ、これから生きていく子どもたちにとってどのような遊びの環境がより良いのかを考え、話し合い実践していく。

6 学校関係者評価委員会からのコメント

こども達や日々の保育環境において誰もが誠実に取り組んでいる様子や美術担当として保育者以外の専門性のある職員を導入したことなど、評価に値するが一方個々において研修等で学んだことやチーム保育としての園全体のあり方がもう少し考えられ、柔軟に活かしたり協力し合えたりすることが望ましい面も見られた。今後子どもたちのために前向きに進んでいくことにもっと留意されると良いと思う。

上記、学校評価の報告を受けた事を証明します。

学校法人 大石学園
静岡聖光幼稚園
理事長 大石和正